Immediate Press Release　2014.9.3

# ザハ・ハディド
# Zaha Hadid

photo: Brigitte Lacombe
© Zaha Hadid Architects

謹啓　初秋の折、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は東京オペラシティ アートギャラリーの展覧会活動に対してご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では2014年10月18日［土］より12月23日［火･祝］まで、「ザハ･ハディド」展を開催いたします。

バグダッド生まれ･ロンドン在住のザハ･ハディド（1950-）は、現代の建築界を牽引する巨匠であり、世界を席巻する建築家です。1980年に自身の事務所を設立、83年には〈ザ･ピーク〉の国際コンペティションで勝利し、そのコンセプトとともにザハの名は一躍世界に知られることになりました。しかしこのプロジェクトをはじめ、ザハの設計は当時の施工技術や建築思考に収まらない前衛的な内容だったため、独立後10年以上にわたって実際に建てられることはなく、長らく「アンビルトの女王」（アンビルト＝建設されない）の異名を与えられていました。

1993年〈ヴィトラ社消防所〉が初めての実現プロジェクトとなってからは大規模なコンペティションで次々に勝利を重ね、かつ実際に建てられるようになりました。そしてこのたび〈新国立競技場〉国際デザイン･コンクール最優秀賞選出により、日本でも実作の建設が決定しました。

日本初の大規模個展となる本展では、ザハ･ハディドのこれまでの作品と現在の仕事を紹介し、その思想を総合的にご覧いただきます。アンビルトの時代に膨大なリサーチにもとづいて描かれたドローイングから、世界各地で建てられるようになった実作の設計、スケールを横断する例であるプロダクト･デザインを含め、展示空間全体を使ったダイナミックなインスタレーションで紹介します。

東京オペラシティアートギャラリーでは〈新国立競技場〉コンクール募集要項が発表されて以来その動向に注目し、その過程でザハ･ハディドの展覧会を計画してきました。その後、競技場をめぐってさまざまな議論が展開されていますが、設計者に関する情報が限られていると感じています。本展が、初めてザハの名を目にした方から初期よりご存知の方まで、鑑賞者それぞれの視点でザハの建築を体験し、その思想に触れる機会となることを願っています。

つきましては「ザハ･ハディド」展をぜひご紹介いただきたく、周知･告知活動にご協力賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

■本リリースに関するお問い合わせ
東京オペラシティ アートギャラリー　【展覧会担当】野村　【広報担当】吉田
Tel 03-5353-0756 / Fax 03-5353-0776 / Email ag-press@toccf.com

開館15周年記念 東京オペラシティ アートギャラリー
ARTGALLERY TOKYO OPERA CITY

## ●アンビルトの時代／日本との関わり

イラクの進歩的な家庭に生まれたザハは、多様な文化的背景をもつ人々と交流しながら少女時代を過ごし、ベイルートの大学で数学を学びました。その後1972年に渡英したザハは、幼いころからの夢であった建築家を目指して英国建築家協会付属建築学校（AA スクール）に入学します。ここで当時講師であったレム・コールハースに出会い、卒業後は彼の主宰する Office for Metropolitan Architecture（OMA）に参加、3年後の1980年には自身の事務所を設立します。

独立後、〈ザ・ピーク〉の国際コンペティションで1等になるなど早くから世界的な注目を集めるようになりましたが、そのどれもが計画の途中で中止となり、10年以上にわたって実作に恵まれませんでした。しかしこの時期は建築と都市に関する膨大なリサーチと実験を繰り返した期間でした。この間には日本と関連するプロジェクトも存在し、札幌のレストラン〈ムーンスーン〉の内装がキャリア初の実現プロジェクトとなりました。

本展の前半では、「アンビルトの女王」と呼ばれた時代にあって精力的に描かれたペインティングやドローイング、都市や空間の可能性を探った模型、札幌のレストラン内装を含む3つの日本のプロジェクトなど、初期の仕事を紹介します。

**〈ザ・ピーク〉香港 1982-83**

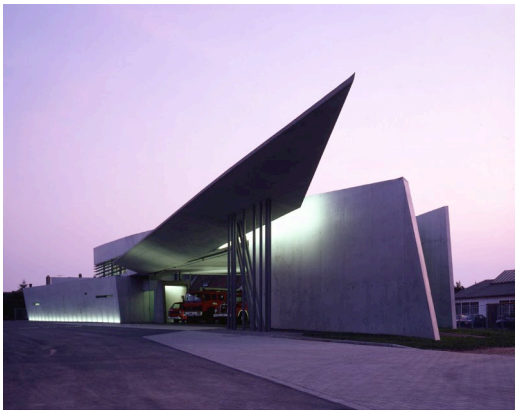
ヴィクトリア・ピーク山上のレジャー・クラブ建設に際して行われた国際コンペティション。500以上の応募案の中から当時無名のザハが1等に選出されました。審査委員のひとりは磯崎新。無数の破片が飛び散ったようなダイナミックなドローイングは建築界に衝撃を与えました。事業者の倒産によって計画は中止されましたが、このプロジェクトによってザハは世界的な注目を集めます。本展では今や伝説ともいえるこのドローイング群、模型がまとめて出品されます。

© Zaha Hadid Architects

## ●三次元を操る／形にこめられた意志

1993年〈ヴィトラ社消防所〉でようやく竣工の機会を得たザハは、その後つぎつぎにプロジェクトの実現に恵まれます。コンピュータによる三次元解析、施工技術の進歩や、建築の新しい姿を求める人々によって、前衛的すぎると言われ続けたザハの設計は現実のものになり、世界各国でプロジェクトが進行しています。

一目で印象に残るザハの建築ですが、その形はどのような考えにもとづき、生み出されるのでしょうか。〈ヴィトラ社消防所〉をはじめ、〈ベルクイーゼル・スキー・ジャンプ台〉、〈ロンドン・アクアティクス・センター〉、〈ヘイダル・アリエフ・センター〉など代表作の模型や映像、高層建築のスタディ模型などから、その思考と感覚を探ります。



**〈ヴィトラ社消防所〉ヴァイル・アム・ライン 1991-93 竣工**

photo:Christian Richters　© Zaha Hadid Architects

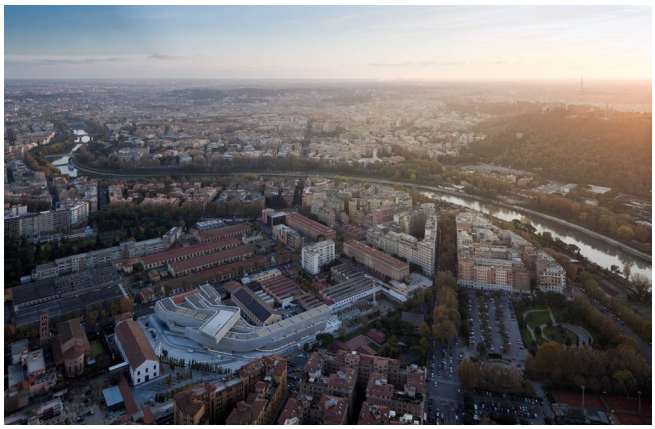
**〈ロンドン・アクアティクス・センター〉2005-11 竣工／ 2014 改修**

2012年ロンドン・オリンピックの水泳競技場として建設された施設。設計段階から、オリンピック期間中は17,000超の観客席を擁し、閉会後は2,500席への縮小が計画されていました。2014年春に縮小改修が完了。

photo: Hufton + Crow　© Zaha Hadid Architects

**●シームレスな思考／プロダクトから都市計画まで**

ザハの仕事の特徴のひとつとして、スケールを自在に行き来しながら設計を行っている点が挙げられます。指輪やブレスレットなどの装飾品から食器、家具、照明器具などプロダクト・デザインの仕事を多数行うと同時に、建築はもとより都市計画といった大きな規模のプロジェクトを手掛けるなど、ザハのデザインする対象にはスケールの境界がありません。そのデザインに一貫して見られるのは、「動き」に対する独特の視点と感覚です。一見すると奇抜に思える彼女の設計ですが、その作品は周囲のエネルギーを自然に取り込み、新しい流れを作り出すといった流動性に焦点を当てて作られていることがわかります。



**〈MAXXI 国立21世紀美術館〉ローマ 1998-2009 竣工**

ローマの中心部から少し離れた兵舎跡地を敷地とする美術館。やや混沌とした周辺の街区や地形にもとづいた川の流れのような外形は、建物内部にも連続しています。垂直、斜めの方向にも進む通路は、分岐・合流を繰り返しながら建物全体に都市的な重層性を与えます。外部から内部へ、また内部から外部へと、人々に漂流をうながすこの建物は、都市や人間の行動といったさまざまなレイヤーの流動性を内にも外にも包含しています。

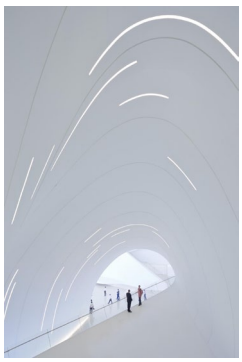
photo: Iwan Baan © Zaha Hadid Architects

**〈リバーサイド・ミュージアム〉グラスゴー 2004-11 竣工**

photo: Hufton + Crow © Zaha Hadid Architects

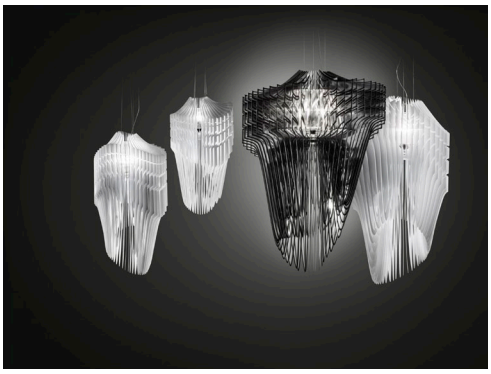
**〈ヘイダル・アリエフ・センター〉バクー 2007-12 竣工**

photo: Iwan Baan © Zaha Hadid Architects



**〈ヘイダル・アリエフ・センター〉バクー 2007-12 竣工**

photo: Iwan Baan
© Zaha Hadid Architects



**〈アリア&アヴィア・ランプ〉Slamp 2013**

© Zaha Hadid Architects

**〈リキッド・グレイシャル・テーブル〉David Gill Galleries 2012**

photo: Jacopo Spilimbergo © Zaha Hadid Architects

**〈ムーンスーン・レストラン（内装）〉札幌 1989-90 完成**

photo: Paul Warchol
© Zaha Hadid Architects

**●〈新国立競技場〉で目指すもの**

2020年東京オリンピックの会場となる〈新国立競技場〉国際デザイン・コンクールは募集段階から注目を集めていましたが、ザハ案が採択されてからは景観や費用などの問題を巡ってさまざまな形で議論が行われ、メディアにも採り上げられてきました。はたして、ひとつの建築がこれほどの議論を呼び、一般的にも注目を集める機会が近年あったでしょうか。ザハの建築は、私たちが見ようとしなかったものを露わにするべく打ち込まれた楔(くさび)ともいえるでしょう。

展覧会では、コンクール応募から最新の計画までを展示することで、私たち自身の目で新しい建築を、そして東京の都市を考える場を作ります。

**〈新国立競技場〉東京 2012** -© Zaha Hadid Architects

## [開催概要]

| | |
|---|---|
| 展覧会名 | ザハ・ハディド　Zaha Hadid |
| 会期 | 2014年10月18日［土］— 12月23日［火・祝］ |
| 会場 | 東京オペラシティ アートギャラリー |
| 開館時間 | 11:00 — 19:00（金・土は20:00まで／最終入場は閉館の30分前まで） |
| 休館日 | 月曜日（祝日の場合翌火曜日、12月22日［月］は開館） |
| 入場料 | 一般1,200（1,000）円／大・高生1,000（800）円／中学生以下無料 |

＊同時開催「収蔵品展049 抽象の楽しみ」、「project N 58 髙畠依子」の入場料を含みます。
＊収蔵品展（特別展示）入場券200円（各種割引無し）もあり。
＊（　）内は15名以上の団体料金。その他、閉館の1時間前より半額、65歳以上半額。
＊障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

掲載用お問合せ　03-5777-8600（ハローダイヤル）
ウェブサイト　http://www.operacity.jp/ag/　https://www.facebook.com/tocag

主催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
特別協賛：ジャパンリアルエステイト投資法人、NTT 都市開発株式会社
協賛：株式会社 NTT ファシリティーズ、株式会社アサヒファシリティズ
協力：相互物産株式会社、東リ株式会社、兼松エレクトロニクス株式会社、株式会社クレッセント
ダッソー・システムズ株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社